

あおぞら

行方市社協だより

— 発行者 —
社会福祉法人
行方市社会福祉協議会

住所 茨城県行方市玉造甲403番地
☎ 0299 (36) 2020
FAX 0299 (55) 4545
URL <http://www.yokattanet.jp>



行方市ボランティア連絡協議会玉造地区委員会チャリティーバザー (関連記事はP10に掲載)

P12

善意銀行・編集後記

P10～P11

義援金ありがとうございました
ます・お知らせ

P9

ひとり暮らし高齢者事業

P8

障害者地域活動支援センター「ドリームハウス」

P7

子育てサポート事業

P6

いきいき長寿者紹介

P5

赤い羽根共同募金

P2～P4

平成22年度事業報告
平成22年度決算報告

目次

平成22年度事業報告

く安心して暮らせる福祉のまちづくりを目指して

次のような事業を実施いたしました

会員数

- ・ 一般会員 8370世帯
- ・ 賛助会員 303世帯
- ・ 特別会員 128事業所

善意銀行運営事業

- ・ 市民の皆様の温かい善意の寄付金や物品をお預かりしています。寄付された金品は寄付者の意思に添った福祉事業等に使用させていただきます。

広報啓発活動

- ・ 社協だより「あおぞら」を発行しました。(4回)

相談事業

- ・ 弁護士による無料法律相談を実施しました。(毎月2回 相談件数82件)

高齢者福祉事業

● 高齢者サロン事業

- ・ 高齢者が生涯健康で生きがいを持つて社会活動できるような健康・生きがい作りに関する事業及びリーダーの育成並びにひきこもり防止や交流事業を実施しました。(3ヶ所 延べ31回 467名参加)

- 健康作りを通じた交流を目的として実施しました。(17回 延べ183名参加)

● 敬老祝賀記念品贈呈事業

- ・ 市と合同で80歳以上の高齢者に記念品を配布しました。(配布人数3971名)

障害児(者)福祉活動事業

- ビックリ・発見・夏キャンプ
- ・ 共同生活を体験し、社会で暮らしていくための知識等を学ぶことを目的に実施しました。(142名参加 協力 アール医療福祉専門学校)

児童福祉事業

- 子育てサポート事業
- ・ 子育てサポーター(子育てを支援する方)と利用者(子育て支援を必要とする方)の相互援助活動を実施しました。(延べ保育サービスタ提供時間300時間)

母子・父子福祉事業

- ・ ひとり親家庭の親子のふれあいを支援することを目的として実施しました。(29名参加)



ふれあい広場



のびのびサポート事業



ねんりんスポーツ大会



福祉体験事業



ボランティア連絡協議会全体研修会



福祉車両



給食サービス事業



共同募金運動

ボランティア活動推進事業

- ボランティアセンター運営事業
- ・ ボランティア活動を希望される方と必要としている方の調整等を行いました。(団体登録40団体 740名 個人登録120名 依頼件数41件 派遣延べ人数235名)

- 児童・生徒へのボランティア普及活動
- ・ 高齢者や障害者への正しい理解促進のために学校等での各種福祉体験学習を実施しました。(延べ26回実施)

- 運営委員会の開催
- ・ 各種ボランティア団体等への配分金の審査を行いました。
- 福祉教育学区指定事業
- ・ 福祉教育推進のために指定事業を実施しました。(玉造西小学校)

**生活福祉資金貸付事業
(茨城県社会福祉協議会より事務委託)**

- ・ 低所得者や高齢者、障害者の生活を経済的に支えるとともに、在宅福祉及び社会参加の促進を図る目的で実施しました。(相談件数34件 貸付件数7件)

福祉団体への支援

- ・ 老人クラブ連合会・ボランティア連絡協議会・身体障害者福祉協議会・母子寡婦福祉会・遺族会等の事務局運営支援を行いました。

在宅福祉サービス・在宅生活支援事業

- 福祉機器貸出事業
- ・ 疾病やケガ、障害者及び高齢者の方などで一時的に車いす等の福祉機器が必要となった方に貸出を行いました。(57件)

- 福祉車両貸出事業
- ・ 障害者や高齢者及びその家族や

ボランティアの方に車いすごと乗り降りできる福祉車両の貸出を行いました。(63件)

- 訪問歯科治療機器貸出事業
- ・ 歯科医への訪問治療機器の貸出を行いました。

地域ケアシステム推進事業

- ・ 支援を必要とする方一人ひとりに在宅ケアチームによるきめ細かい在宅サービスを提供しました。(サービス調整会議1回 サービス調整クイック会議7回 検討ケース7ケース 相談件数14件 研修会1回)

- 在宅福祉サービスセンター事業
- ・ 高齢者や障害者(児)に対しボランティアの協力を得て、日常生活における援助等を実施しました。(利用件数延べ4688件 利用時間延べ6320時間)

- 在宅リハビリアドバイザー事業
- ・ 病气やけがにより身体的能力の低下した方に対して、能力回復を目的として理学療法士による訪問指導を実施しました。(2回)

- 在宅言語等リハビリアドバイザー事業
- ・ 病气やけがにより言葉によるコミュニケーション能力の低下した方に対して、能力回復を目的として言語聴覚士による訪問指導を実施しました。(11回)

- 軽度生活援助事業
- ・ 在宅のひとり暮らし高齢者に対し、軽易な日常生活上の援助を実施しました。(利用者数延べ93名 利用回数延べ539回)

- 給食サービス事業
- ・ 在宅の高齢者等で食事作りが困難な方に、栄養のバランスを考えた食事をご自宅にお届けすることにも、声かけや安否の確認をしました。

- (麻生地区 延べ1608食 協力 麻生地区給食ボランティア)
- (北浦地区 延べ1739食 協力 ボランティアグループさわやか)
- (北浦地区食生活改善推進員)
- (玉造地区 延べ542食 協力 よもぎ会 ひだまり)
- (玉造地区給食ボランティア)

- 日常生活自立支援事業
 - ・ 自分ひとりで金銭の管理や支払い等が困難な方に対して、福祉サービスの利用援助、代行、利用料の支払いなどを実施しました。(相談件数13件 利用者数6名)

介護保険事業

- 居宅介護支援事業
 - ・ 指定居宅介護支援事業所の運営を行い、介護支援専門員(ケアマネージャー)によるケアプランの作成、利用者のサービス提供相談、訪問助言指導、介護保険認定調査を実施しました。(プラン作成数2264件)

訪問介護事業

- 訪問介護事業所の運営を行い、ホームヘルパーの派遣、サービス内容の相談を実施しました。(利用者数延べ1561名 派遣時間延べ20515時間)

障害福祉サービス事業

- 居宅介護サービス事業
 - ・ 指定訪問介護事業所(自立支援法)の運営を行い、障害者(身体的・精神的)への身体介護、生活支援サービスを実施しました。(利用者数延べ387名)

地域生活支援事業

- 障害者相談支援事業
 - ・ 在宅福祉相談
 - ・ 在宅自立生活アドバイス

- 障害者移動支援事業
 - ・ ホームヘルパーの派遣(利用者数延べ59名)

障害者地域活動支援センター事業

- 障害のある方に対し、働く場所と創作活動の機会を提供し、知識・能力向上のための支援を実施しました。(利用者数29名)

共同募金事業

- 赤い羽根共同募金運動
 - ・ 10月1日より全国一斉に赤い羽根共同募金運動が実施され、行方市でも個別募金・学校等募金・イベント募金・設置募金・職域募金・街頭募金を実施しました。(募金総額4632859円)

歳末たすけあい運動

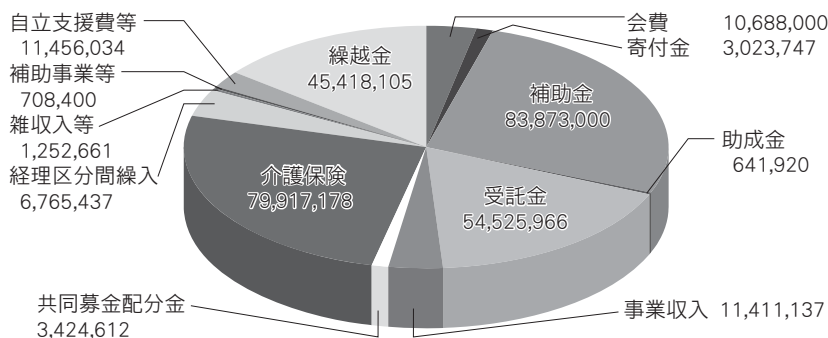
- 市内全域において、高齢者世帯・障害者世帯の方々を対象に、シルバー人材センター等の皆様の協力を得て家事援助サービスを実施しました。(掃除8件 草刈26件 障子貼り44件 網戸貼り14件 修理6件 ふすま貼り3件)

新公共交通システム事業

- 利用者の予約により目的地まで乗合で送迎するタクシー(デマンド型乗合タクシー)の運行を実施しました。(利用者登録数2942名 利用者数延べ17660名)

平成22年度決算報告

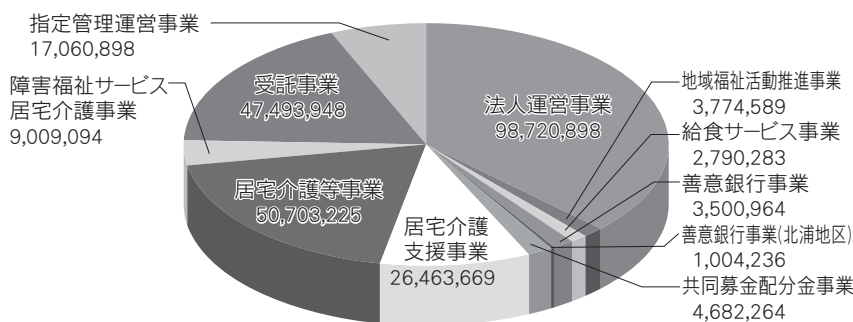
収入



(単位：円)

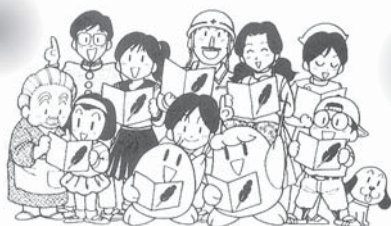
会費	10,688,000
寄付金	3,023,747
補助金	83,873,000
助成金	641,920
受託金	54,525,966
事業収入	11,411,137
共同募金配分金	3,424,612
介護保険	79,917,178
自立支援費等	11,456,034
補助事業等	708,400
雑収入等	1,252,661
経理区分間繰入	6,765,437
繰越金	45,418,105
合計	313,106,197

支出



(単位：円)

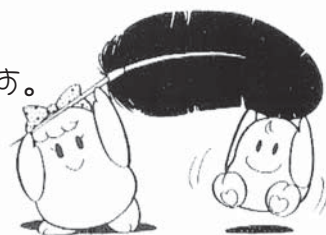
法人運営事業	98,720,898
地域福祉活動推進事業	3,774,589
給食サービス事業	2,790,283
善意銀行事業	3,500,964
善意銀行事業(北浦地区)	1,004,236
共同募金配分金事業	4,682,264
居宅介護支援事業	26,463,669
居宅介護等事業	50,703,225
障害福祉サービス居宅介護事業	9,009,094
受託事業	47,493,948
指定管理運営事業	17,060,898
合計	265,204,068



赤い羽根共同募金運動 について

ひとい、ひといのやさしさが、
あなたの住む町を、もっと、やさしくしてくれます。

赤い羽根の募金活動は、町の人のやさしい気持ちを集める活動です。
あなたのやさしさが、あなたの声かけが、あなたの行動が、
きっと、町を変えていくはじめの一歩となるはあです。
もっと、もっと、良いまちにないまあように。



○ 共同募金とは ○

社会福祉の分野で唯一法律（社会福祉法）に基づいて行われる計画的な募金です。この共同募金は毎年1回（10月1日から12月31日）、国民総参加のたすけあい運動となって展開されています。

民間の福祉施設や団体が個々に募金を行うと、いろいろな問題が起こります。

例：何度も同じような募金が行われてしまう。配分先に偏りがでてしまう。等

このようなことを避けるため、募金を共同募金会に一元化し、寄付金の募集・管理・配分を総合的に調整して行うところに特徴があります。

また、県内で共同募金に寄附したお金は、県内の社会福祉に使われ、県外や国外に使うことはできません。※災害支援・救護活動のための準備金のみ、県外への拠出が認められています。

○ 共同募金は計画募金 ○

共同募金は、事前に使いみちや集める額（目標）を定め、地域の福祉のための募金と助成に関する計画をたてる募金です。「各地域で行われる福祉活動の中で優先して必要な額」をもとに、あらかじめ“使いみちの計画”をたてることが義務づけられています。

この計画に必要な総額が、「県内で今年は最低これだけの資金が必要」ということであり、これが「目標額」となります。

○ 共同募金の種類 ○

● 一般募金

助成対象となる社会福祉団体・施設などの次年度事業に要する費用の一部を補うための募金です。

県内の社会福祉団体活動費・社会福祉施設整備費・地域福祉活動助成費・市町村社会福祉協議会活動費の一部及び管理・運営費として使われます。

● 歳末たすけあい募金

歳末時期に行う社会福祉活動に配分する募金です。

新たな年を迎える時期、支援を必要とする人たちが安心して暮らせるよう、主に市町村社会福祉協議会が行う歳末支援事業に使われます。

いきいき長寿者紹介

山沢ちよさん（行方市警察）96歳



敷地に入るととてもきれいな花が目飛び込んできました。「きれいでしょう。これはね…」目をキラキラ輝かせながらお話されるのがとても印象的なちよさん。そんなちよさんは体を動かすことが大好きとのこと。毎日近所のゲートボール場に出向いてはプレーを楽しんでいるそうです。ちよさんが70歳



小沢ちよさん

のときにゲートボールの会を立ち上げ、現在も中心人物として活躍中です。最近は人数が減ってきているのが悩みのたねだとか。取材に伺った日はあいにくの雨のため、プレーが出来なくて残念そうでした。「テレビでもスポーツを見るのが多いかな。でも、見るだけじゃつまらない。ゲートボールをやりに行くと知り合いと話もたくさんできるしね。人と人とのふれあいは大事だよ。それに体を動かした後はご飯もおいしいしね。」と笑顔で語ってくれました。ゲートボールだけでなく、以前は三味線や民謡などの活動もさ

れていたちよさん、エネルギーが豊富な理由が垣間見られた気がしました。

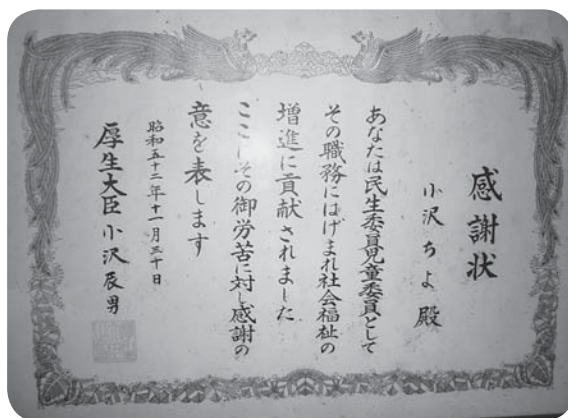
ちよさんは6人家族です。お話を伺っていて非常に感じたことはとても家族に愛されているということ。ちよさんは「家族が協力してくれるからこそ、好きなことが出来る。ありがたい。」と家族に感謝しつつも謙遜されていました。ちよさんの温かいお人柄があつてこそだと感じました。

またちよさんは以前、民生委員や老人クラブ会長、女性会の会計なども歴任されていました。家族だけでなく、地域からも愛されているお人柄が伺えます。



ゲートボール大会でのトロフィー、メダルの一部

取材の最後に好きな言葉について伺いました。「人の悪口を言わない」「心づかいを大切に」などの中で一番印象に残ったのが「我慢」という言葉でした。自分さえ良ければいいという風潮がある昨今、ちよさんの言葉は重く、そして強く心に残りました。一回では取材しきれないというほど多趣味だったちよさん、これからもお体に留意されますますのご活躍をご期待申し上げます。



厚生大臣（当時）からの感謝状



応援します！ママの子育てと仕事の両立
ママのリフレッシュにも！

子育てサポート事業



「子育ての援助を受けたい人」（利用会員）と「子育ての援助をしたい人」（協力会員）が会員となり、お互いに助け合って活動する事業です。

サポートの内容は？

- 保育園・幼稚園等保育施設、学童までの送迎、お迎え後の預かり
 - 保育園・幼稚園等保育施設の開始前や終了後、休園日等の預かり
 - 保護者の病気などの時の預かり
 - その他、保護者の必要に応じて（ママのリフレッシュの為の利用も大歓迎!!!）
- ※ 原則、子どもを預かる場合は、協力会員宅で行います。

利用会員

- 市内に居住又は勤務し、生後6ヶ月から中学校就学前までのお子様を持つ方

活動時間及び利用料

- 平日 午前7時～午後7時まで 1時間あたり800円
午後7時～午後9時まで 1時間あたり900円
※ 1時間あたり400円の助成金を交付します。
- 休業日 土曜日・日曜日・国民の祝日・年末年始（12月29日～翌年1月3日まで）
※ 休業日の利用を希望される方については相談に応じます。

協力会員

- 市内に居住し、育児に関する知識及び経験を有する方

☆このサービスを利用するにあたり、社会福祉協議会へ事前に申請、登録が必要となります。

ご不明な点等ありましたら、ご連絡下さい。

お申込・お問合せ先
行方市社会福祉協議会
住所 行方市玉造甲403番地
電話 0299(36)2020



☆使わなくなったチャイルドシート・ジュニアシートがある方はお譲り下さい。

障害者地域活動支援センター「ドリームハウス」

《農耕活動》

新年度を迎え早いもので、半年の月日が流れました。新しい仲間も日々の生活にも慣れてきたようです。

今年もセンター入り口では農耕活動として野菜づくりをしました。暑い日が続きましたが、水かけや除草作業などをこまめに行いました。大切に育てた野菜を収穫して、カレーなどを作ってみなで食べました。みんなで食べることはおいしさだけではなく、楽しい時間も得ることができます。

「ドリームハウス」では、利用者の方々と共にこうした日中活動の中でこれからもみんなで作られる時間を大切にしていきたいと思えます。



作物の様子

《地域交流会》

今年も玉造工業高校のご招待を受けて、地域交流会に参加させていただきました。

当日は、シャボン玉コーナー、紙飛行機コーナー、ペットボトルロケットコーナーなど工業高校ならではの楽しいアトラクションを準備いただきました。地域の方々との交流ができた皆さんの皆様とふれあうことができました。

ご利用に関してのお問い合わせ等

行方市社会福祉協議会麻生出張所
☎ 0299(80)6661

行方市障害者地域活動支援センター 「ドリームハウス」

〒311-3832
行方市麻生2744-23
☎ 0299(72)0054

第9回

ビックリ・発見・夏キャンプ開催!

8月4日(木)から5日(金)にかけて白浜少年自然の家において、ハンディキャップをお持ちの方を対象とし、自立・体験の拡大を通じて社会へ飛び出す第一歩を目的としたサマーキャンプが開催され、139名の方が参加しました。当日は土浦市所在のアール医療福祉専門学校の学生の皆さんの協力があり、レクリエーション及び交流会を中心としたプログラムを行いました。



キャンプ参加者の作品



夕食準備の様子



キャンプ参加者集合写真



レクリエーションの様子

●北浦地区ひとり暮らし高齢者事業●

日帰りふれあい遠足

6月13日(水)、ボランティアグループさわやかな皆さんの協力のもと、千葉県のアじさい屋敷、大多喜城、笠森観音に行ってきました。

日頃、農作業をしたり、運動をしたりしているせいか、皆さん足腰が強く、長い道をおしゃべりしながら歩いていきました。バスの中では、ボランティアの内野英治郎さんの笛に合わせて、歌を歌ったり、レクリエーションをして楽しく過ごしました。



散策を楽しむ参加者

参加者の声

震災の後、しばらく出掛けられませんでした。友達から“行こう”と声を掛けられたので参加し、楽しませていただきました。一人であるのでなかなか出掛けられませんが、毎年楽しみにしています。

小澤 しついさん



車内の様子

給食サービス無料配布

昨年から年2回ではありますが、給食サービスのお弁当をひとり暮らし高齢者の皆さんに無料で配布させていただいております。第1回目として5月27日(金)に津澄地区、6月10日(金)に武田・要地区にお配りしました。これを機に給食サービスを利用し始める方もいらっしゃいました。

利用者の声

庭の立木を手入れ中に転倒して腰を強打。寝たきりになって近所の知人に民生委員を紹介されました。その時、給食サービスを受けたらどうかと言われたけど、延び延びになっていたところ社協より給食サービスの配布を受けることにしました。

東京にいた時には高齢者に対する種々のサービス事項がありましたが、このような給食制度はありませんでした。おそらく行方市だけだと思います。また給食内容にしても種々衛生面にも心配りがあり感謝しております。

宮口 敬一さん



お弁当を受け取る様子

この事業は、北浦地区のご家族の不幸に際しての寄付を財源に事業を行っております。

義援金ありがとうございます

皆様からの東日本大震災義援金、心より感謝申し上げます。(順不同、敬称略 8月6日現在)

氏名	金額
株式会社 セイミヤモール麻生店	15,000円
行方市体協 ソフトバレーボール部員一同	5,213円
朗読ボランティア 四つ葉会	5,000円
行方市ボランティア連絡協議会	21,773円
行方市ボランティア連絡協議会玉造地区委員会	39,331円

お預かりいたしました義援金は、茨城県共同募金会を通じて中央共同募金会へ送金され、配分委員会を経て被災県へ送られます。

共同募金会行方市支会 (行方市社会福祉協議会内)

お問合せ ☎ 0299 (36) 2020

～皆様の善意をお届けしました～

行方市ボランティア連絡協議会玉造地区委員会で8月6日(土)のふれあいふるさと祭り(商工会主催)において東日本大震災義援金に寄与することを目的にチャリティーバザーを実施しました。

皆様のご支援・ご協力により27,955円の売り上げと、11,376円の募金を頂きました。共同募金会を通じ全額を義援金として被災地に送らせていただきました。

今後も、充実したボランティア活動の推進に努めて参りますので、更なるご支援・ご協力方よろしくお願い申し上げます。

被災地派遣ボランティア事業

東日本大地震における被災地支援ボランティア活動にご協力いただける方を募っています。活動場所は、岩手・宮城・福島のいずれかです。

活動内容は、各家庭・施設の片付けや泥掃除の手伝い・避難所等での炊き出し、担当地域のニーズ調査などです。

被災地の支援活動は様々ですので、専門知識を活かせない場合もありますが、どんな活動でも被災した方々の支援につながりますのでご相談下さい。ご協力をお願いいたします。

お問合せ 地域福祉係 ☎ 0299 (36) 2020



被災地ボランティアの様子

行方市善意銀行

平成23年5月3日から平成23年8月5日までに善意をおよそいただいた方々を紹介いたします。皆様からの善意は行方市のさまざまな福祉活動に使わせていただいています。

ご指定いただいた寄付につきましては、指定の福祉事業に使わせていただきます。皆様からの温かいご寄付に心より感謝申し上げます。

皆さまからの寄付金 (順不同・敬称略)

一般寄付金

預託者名	金額(円)	指定先
荒張高一	20,000	無指定
一二三会 会長 阿部 剛	43,934	無指定
宮路 久子	200,000	東日本大震災義援金
行方ダンススポーツ部	10,000	無指定
鹿行ハイヤー協会行方支部	30,000	無指定
井上山百合の会	75,928	東日本大震災義援金
玉造陶芸愛好会	22,460	東日本大震災義援金
行方市シルバー人材センター	42,899	東日本大震災義援金

宮路氏は彫刻家としての作品の売上をご寄付いただきました



行方市シルバー人材センター



東日本カラオケ振興会



井上山百合の会



玉造陶芸愛好会

善意の預託品

預託者名	預託品	指定先
東日本カラオケ振興会	車いす1台	無指定
石崎 絹枝	ぬいぐるみ45個	無指定

指定寄付金

預託者名	金額(円)	指定先
三浦 弘悦	10,000	北浦
横瀬 藤博	30,000	北浦
村上 みち子	10,000	北浦
前川 俊雄	10,000	北浦
青木 浅則	20,000	北浦
久力 一男	20,000	北浦
額賀 建夫	20,000	北浦
岡里 年貢	20,000	北浦
貝塚 憲司	20,000	北浦
青木 喜隆	20,000	北浦
大久保 正一	50,000	北浦
松本 庄三	20,000	北浦
古渡 祥晃	30,000	北浦
横田 壬秀	10,000	北浦
小沼 沼市	10,000	北浦
千ヶ崎 昌利	20,000	北浦
沼田 嘉夫	20,000	北浦
長峰 幸男	10,000	北浦
高庭 康久	20,000	北浦
高柳 三明	10,000	北浦
高正 光治	10,000	北浦

故人のご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

震災や原発事故との影響と戦いながら生活している今日この頃ですが、最近はその猛暑でさらに生活は過酷な状況です。そんな中、趣味のガーデニングで、毎日欠かさず、草花や植木に話しかけるようにしたり、葉をやり、気にかけている根付いたり、葉をつけたり、花を咲かせたり、と成長していく姿を実感して私自身が癒されます。

私が苦手で、友達もつくらず、のたがたりと懸命に働いている草花や植木が、黙々と成長している様子を見ながら、水をやったり、気配りして、伝えたいことを話しかけ、支え合っている、今、子育てで大変なお父さん、お母さん、またこれからの世に、お父さん、お母さん、嬉しかったこと、悩んでいること、どんな声でも『あおぞら』にこの

広報委員

委員長	城山 文男
副委員長	菅澤 トヨ
委員	大久保 守
	菅谷 京子
	小貫 敏子
	大軒 光江
	山崎 實
	石橋 展子
	代々 城千尋
	小峰 宏信

聞かせてください。人間として生まれてきたのですから、いろいろな世代の人達が、古くから触れ合ったり、新しい力を知ったりすることに成長し、小さな喜びも大きな喜びに、辛さや悲しみは小さく感じられるように、協力し合っていきたいし、また、そのことを実感できたら、とても素敵なことだと思います。

そして、『あおぞら』があるように、いつでもどんな時でも希望があることを忘れずに生きていけたらと思います。

(石橋 広報委員)